

第3回 芦屋市水道事業経営審議会 会議録

日 時	平成29年8月26日（土） 9：00～10：45
会 場	市役所東館3階大会議室
出席者	<p>会 長 西尾 宇一郎 会長職務代理者 政岡 勝治 委 員 井上 佳昭, 小湊 雅子, 北村 佳子, 椎森 俊介, 杉島 健文 藤田 芳子, 欠 席 久保田 奈々, 長谷 啓弘, 渡辺 史恵, 脇本 篤 事務局 芦屋市上下水道部 古田 晴人 芦屋市上下水道部水道管理課 平野 雅之, 榊井 大輔, 頭井 智世 山根 和之, 河野 優人 芦屋市上下水道部水道業務課 福井 辰哉, 大久保 瑞穂 芦屋市上下水道部水道工務課 下岡 信二, 藤本 祥行, 宮本 真由美 南 善樹, 川崎 朗</p>
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公 開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 <非公開・部分公開とした場合の理由>
傍聴者数	1人

1 会議次第

1 開 会

【審議会の成立について】

- ・ 12名中8名の委員の出席により成立

【審議会の傍聴者について】

- ・ 1人

2 会長あいさつ

3 議事

- (1) 芦屋市水道ビジョン（平成29年度改訂版）【原案】及び芦屋市水道事業経営戦略【原案】について

4 閉 会

2 資料

事前配布資料

- ・ 事前資料1 芦屋市水道ビジョン（平成29年度改訂版）【原案】
- ・ 事前資料2 芦屋市水道事業経営戦略【原案】
- ・ 事前資料3 収支計画（施策実施後）

当日配布資料

- ・ 審議会次第
- ・ 当日資料1 名簿
- ・ 当日資料2 芦屋市水道事業経営審議会規則
- ・ 当日資料3 芦屋市水道ビジョンの改訂及び経営戦略の策定
- ・ 当日資料4 平成29年度第1回芦屋市水道事業経営審議会質問回答
- ・ 当日資料5 芦屋市水道ビジョン（平成29年度改訂版）（原案） 概要
- ・ 当日資料6 平成29年度 芦屋市水道事業経営審議会 スケジュール
- ・ 広報あしや8月15日号

3 審議経過

(1) 芦屋市水道ビジョン（平成29年度改訂版）【原案】及び芦屋市水道事業経営戦略【原案】について

(事務局平野)

「事前資料1 芦屋市水道ビジョン（平成29年度改訂版）【原案】」, 「事前資料2 芦屋市水道事業経営戦略【原案】」, 「当日資料3 芦屋市水道ビジョンの改訂及び経営戦略の策定」, 「当日資料5 芦屋市水道ビジョン（平成29年度改訂版）（原案） 概要」に沿って説明（省略）

(西尾会長)

事前配付資料, 当日配付資料に基づきまして, 今, 御説明のありましたビジョンと経営戦略について議論をしていきたいと思えます。

お気づきの点, 御自由に御発言願いたいと思えます。いかがでしょうか。

(椎森委員)

芦屋市水道ビジョンのアンケートのところですが, ほとんど上水道のことばかりで, 下水道のことがほとんど話題になってない。最近, 例えば東京のある区だったと思えますが, 下水道のアンケートがありまして, 炊事に使用した油を直接排水する人がいるらしく, 下水道が痛んだりして悪影響がある。上水道供給面も重要だと思うんですが, 排水についても少しアンケートをとる, また市の広報とかで, そのまま捨てないように啓発をしたほうがいいのではないかと思います。

(事務局古田)

上下水道部は事業としては2つの事業を持っておりまして, 上水道の水道事業と下水道事業と2つ持っております。このたび, 審議会で御議論いただくのは上水道の水道事業のほうですので, 今回, アンケートの中には下水道に関しては含まれてございません。下水道事業につきましては, また下水道も来年度以降, 公営企業化を目指しておりまして, 今後アンケート等はまた考えていきたいと思えますので, 今回の中では議論の対象外ということでございます。

(井上委員)

第1回目の審議会の説明では、平成38年度に赤字になるという説明でしたが、今回、施策実施後、なぜそれが黒字になるのか、特に減価償却のところは投資額を減少するという御説明もあったと思うんですけども、それで本当に大丈夫なのかどうかという2点について教えていただければと思います。

(事務局平野)

まず1点目につきましては、投資額を抑えることによって経費も当然落ちることと、あわせて民間委託の推進等で、人員の欠員を違う形で補うことを考えております。そうすることによって経費を抑えることで市民の負担を軽減できるのではないかと考えています。

2点目、投資を抑えることで、安全が保てるのかという質問ですけども、ビジョンの中でも少しお話しさせていただいているのですが、管の耐用年数が技術革新によって延びております。今、老朽管と言われているのは布設後40年以上の管のことを言っているのですが、今後、耐用年数が伸びた管に更新していくので、40年を経過したらすぐ切りかえなくてはならないものではないと考えておりますので、投資額を減少しても大丈夫ではないかと考えています。

(井上委員)

1点目は、最初示されたのと何が変わったのか、今回お示しいただけるのかどうか分からないですけど、具体的にお示しいただかないと、多分パブリックコメントを出しても、誰も分からないのではないかなと思います。人件費については、表を拝見しますと、平成35年から大幅に減っていきませんが、どうやって実現していくのか、具体的に教えていただけないかなと思っております。

(事務局古田)

まず、人件費の部分、これは現在37名の正規職員がいるのですが、この計画の実施において、25人程度まで減らしていきます。これは欠員不補充という形で、退職したら補充はしない方向で行っていくことで支出を抑制できるお金です。人が減った部分は民間の方の力を借りまして、事業を委託にしていきます。委託との差は、人件費部分でいえば6割程度ぐらいで委託が可能ですので、その部分で利益を上げていこうと考えています。

2つ目の工事費の関係です。当初の計画は年間4キロ程度改修する計画をしておったのが、今回3キロ程度に抑え込んでございます。これは古い老朽管路の改修工事です。この1キロ減った部分によりまして、また収益の改善を図ってございます。

次に、更新する距離数を減らしたことによって管路は大丈夫なのかというお話も出ておりますが、管路全体では約240キロございまして、そのうちの約70キロが老朽化してきてございます。約70キロを改修するのに37億円かかります。更新距離数を年間3キロでいけば20年ちょっとかかるということですが、予算的には3億円程度を想定していますので、37億円を単純に3億円で割ると12年半、恐らく13年ぐらいで「ねずみ鑄鉄」という、ちょっと管の力が弱い古い管路がございまして、それが13年程度で改修が見込めるのではないかと考えてございます。

補足説明は以上でございます。

(西尾会長)

今のお話は芦屋市水道ビジョン【原案】の29ページから30ページにある管の更新の話で、更新を実施しなければ上のグラフの状態、更新をしたら下のグラフ状態になりますよということですね。

今のお話でしたら、更新しても3割ぐらいいはグラフでピンク色の経年化資産が残る、だけれども、その部分は耐久性のある管だと理解したらよろしいでしょうか。

(事務局古田)

芦屋市水道ビジョン【原案】の30ページの下から5行目に書いてございますが、GX管とかNS形のダクタイルの耐震性のある管に入れ替えていきまして、これ以降は耐震管や、管自身は非常に強いですがジョイント部分に伸び縮みがしないダクタイル鋳鉄管、これは耐震性のない、そういうダクタイル鋳鉄管が経年化資産、老朽化資産になっていきます。3割ずつはずっと残りますが、耐久性はある程度は確保されていると考えてございます。

(西尾会長)

繰り返しで申し訳ございませんが、20年たった段階で3割は残りますよね。けれども、その3割は、20年たった段階からは強い管であると考えさせていただいたらよろしいですか。

(事務局古田)

そういうことで結構でございます。

(杉島委員)

芦屋市水道ビジョンは収益増加と費用削減が目的だと思いますが、ビジョンにはそのような数字、平成45年にショートするとか、そういった具体的な数字が書いていませんが、そういうことは書かなくていいのかというのが、まず1点。

また、これまでのビジョンでどれだけ経費削減できたかという比較も書いていないので、今回のビジョン策定でどう変わったかが見えにくいのではないかと思います。

最後に、今回ビジョンを策定すると資金ショートが先延ばしできるとなっているのですが、これまでもそういった事業委託や工事の抑制等で先延ばしできているようになっているのかを知りたいと思いました。

(事務局古田)

まず、ビジョンに具体的な数値がないということでございますが、ビジョンそのものについては、どちらかといえば理念を掲げて、経営目標を定めて実施していくところで、このビジョンの53ページ以降に水道ガイドライン業績指標を載せてございまして、こういった全国的な指標に基づいて、経営状況を含めて判断していこうとしてございます。

このことに関しましては、ビジョン策定後、毎年1回、12月に経営状況の説明会をさせていただいております。そこで決算の数値と見比べてどのように数値が改善したかという簡単な評価委員会的なことをさせていただいております。そこで御議論いただいております。

また、御指摘のこれまでの評価、いわゆるビジョンを見直すのであれば、これまで

の4年分を評価すべきではないかというのは、御指摘のとおりだと考えてございますが、今回のこの中には評価のところには触れてございません。

あと、資金ショートすると想定されるのが延びたが、これまでも何らかの形で延ばしてきたのではないかというのは、それも御指摘のとおりでして、前回の場合、耐震化を進めるためには水道料金の値上げをせざるを得ない、それも見込みながら耐震化を進めていただきたいたいという内容だったかに記憶してございます。しかしながら、水道料金の値上げもせずにやってこられたのは、さまざまな改善を積み重ねてきた結果だと考えてございます。ただ、その部分を具体的に示すところが、このビジョンの中には含まれてございません。以上でございます。

(杉島委員)

これまでのビジョンでどれだけ経費削減できたかという資料を提示していただくことは難しいですか。

(事務局平野)

具体的に水道ビジョンといいますのは、4年ごとに見直しをされるものの、本来は12年計画のものであります。今回、大幅に見直しているものではなく、28年度までの数字をつけ加えたり、変化している部分を加えているところでございます。

12年間の計画期間の中で4年ごとの一部見直しをしていき、状況の変化等を反映させたものでございます。

このたび、経営戦略の策定が総務省から示されて、事前資料2の芦屋市水道経営戦略【原案】の1ページ目で、これまでの主な経営健全化で、金額までお示ししておりませんが、取り組みを記載しています。

いくら改善したかという効果額は、今、すぐは答えできません。

(杉島委員)

改善していくうえで、問題点が何かなかったのかというのは前提としてあったほうが、よりいい議論ができるのではないのかなと思ったので質問させていただきました。

(小湊委員)

当日資料3の「2-5の経営理念の改訂」で、現理念の真ん中の部分を削除するという説明をもう1回お願いしたいのと、新しい管に変えたり、経営の努力をしていただいてということですが、過去10年ほど料金の値上げをされていない。それをしない前提でビジョンや経営戦略を策定されているのですが、仮にその料金を多少上げたら、もっと改善されるというような、そういうことは全然考えなくていいですか。考えずにやるのが前提になっているのでしょうか。その2点、お聞きしたいです。

(事務局平野)

まず1点、経営理念の説明ですが、大きなところで、安心・安全、持続、環境、情報公開、こういう4つのキーワードに水道ビジョンがぶら下がっているところでございます。さらに利用者の満足や水道施設等の真ん中の部分につきましては、いわば安心・安全、持続、これらの中に含まれているもので、主要施策の部分だと考えておりまして、もっとビジョンの経営理念は大きな視点で物事をうたうほうがいいのではないかとということで、このたび皆様にご意見を頂戴しながら経営理念を改訂してはどう

かと事務局では考えているところでございます。

また、料金値上げを視野に入れなかったのかという話でございますが、まず市民に御負担をいただく前に、内部での努力ができるところはないかという視点も必要だと考えております。そういったところをないがしろにして市民だけに負担をするのもいかなものかということもございますので、そういったところを検討した結果、このような収支計画が今のところできているということでございます。

ですから、全く値上げは視野になかったという意味ではなくて、経営努力で何とかいけるので、市民に負担を今のところ強いる必要はないのではないかと。もちろん経営努力をしても難しい場合、市民にご負担いただくことを考えなければならないと今も考えているところでございます。ですが、現時点ではそこまでいく必要はないということでございます。

(西尾会長)

このビジョンも経営戦略も、今言われたように、水道料金は据え置くことが大前提でやっておられるんですけど、水の需要は必ず減っていきます。だから、このままいくと給水収益は必ず減ります。一方で、設備の更新や耐震化をする必要があり、一定の支出は必ず要ります。ということは、普通の企業でいうと、これはやっていけないんです。結果どうなるかという、荒っぽい言い方をすると、借金をして、とりあえず資金を工面していく。

あと1つ、先ほどのグラフにもありましたが、経営戦略を行っても料金回収率が100をずっと割りますよね。つまり100円で作ったものを90円台で売る状態がずっと続く。この部分は何かしなければいけないと思います。1つは、水道料金を上げなければコストを下げられるかということがあるんですけどね。恐らくなかなかこういう固定費の多いところは難しいと思うんですけど、コスト削減について、人件費以外で維持費を減らすとか、あるいは未利用地の利用等、その辺をもう少し具体的に御説明いただきたいと思います。

結局、借金をつくって運営しているだけでないのかというのが1点と、もう一つは料金回収率が100%未満でしかいかない、そのあたりについてどう考えておられるのか、そのあたりについて御意見をお聞かせいただきたいなと思います。

(事務局古田)

日本の人口は減少していくのが明らかですし、最終的には8,000万人ぐらいになるのではないと言われております。今ビジョンを策定するにあたり、芦屋市創生総合戦略で算出している人口推計に基づいて給水収益を出していますが、なんとか今ビジョンの中ではもつかなと考えております。しかし将来的には給水人口は減っていきますので、それに連動して収益は必ず減ります。

そうなりますと、今持っている施設を維持できなくなりますので、どこかの段階では値上げも含めた考えが必要であることと、コスト削減の中で施設を減らすのも、これは考えとしてはあるかと思えます。どこかで判断して施設を減らしていく。そうすることによって施設の維持管理費や、改修費、人件費等が減らせていけるのではないかと考えるところでございます。

具体の施策ですが、事前資料の2の中に別紙4がございまして、この中に区分を分けまして、経営資源の効率化の中では、例えば未利用の土地を売却するなり、何か利用するなり検討しようとか、あるいは民間活力の導入の中では、お客様センターの委託を拡大していこうとか、あるいは浄水場に関しては民間委託化を考えていこうとか、水質検査も極力、共同化を図っていこうとか、さまざまな実施計画を67項目掲げてございます。

もちろんこの全てが収支計画の中に反映はしておりませんが、極力、自助努力をすべきところは限りなくやっていきたいと考えてございます。

(椎森委員)

事前資料2のこれまでの経営健全化の取り組みで、企業債の繰り上げ償還の項目がありまして、過去利率6.2%とか、5%とか、かなり高い利率のものを繰り上げ償還されているようですが、今もありますよね。かなり利率は高いのでしょうか。今、国債はゼロパーセントに近いですよ。そういう形で借りかえはできないのですか。

(事務局平野)

おっしゃるとおり、利率が高いと思われがちです。実際、今、一番高い利率は、昭和63年に借り入れた4.85%がございまして、これも31年3月に終了する予定です。

また、民間と違って企業債の利率は国で運用していますので、簡単に償還期間を変更することができません。もし仮に償還期間を変更した場合、手数料が発生しまして、その手数料が結局は利息分ぐらい取られることになります。

そういった事情で、好きなときに返すのができないのが現状でございまして。

(西尾会長)

今借りたら何パーセントですか。

(事務局平野)

平成28年度の借り入れで0.6%です。

(杉島委員)

0.6%で借りて、4.6%の企業債を繰り上げ返済するのはできないのでしょうか。

(事務局平野)

それはできない制度になってございます。

(政岡委員)

事前資料2の3ページ(5)組織の見通しで、平成39年度に24人になったときの組織図新配置図と一緒に書かれたらわかりやすいのではないかなと思います。

また、別紙5の収益的支出における職員給与費は徐々に減少していきませんが、一方、別紙6、資本的支出の職員給与費が5,300万円に変更がありませんが、これは退職引当金のようなものなのでしょうか。

(事務局梶井)

収益的収支の人員費につきましては、退職不補充によりまして人員費が減っております。資本的収支の部分につきましては、これは資本的収支に係る職員の人員費を計上しておりまして、こちらの分につきましては人の増減を見込んでおりません。退職引当金につきましても収益的収支で計上することになります。

(政岡委員)

前回、阪神水道企業団の施設見学において受けた阪神水道企業団の収益の見通しの説明で、10年程で巨額な累損の解消をするというすばらしい計画を見まして、質問させていただきます。事前資料2の4ページ目で「阪神水道企業団の経営状況も厳しく、受水費値上げが発生した場合」とありますが、この受水費の値上げは盛り込んだ上で、彼らは累損の解消を考えているのでしょうか。芦屋市さんは受水費は上がるだろうと考えてらっしゃいますか。

(事務局古田)

阪神水道企業団は神戸市、芦屋市、西宮市、尼崎市、宝塚市と250万人ほど、兵庫県の半分ぐらいの人口を含んでございますので、これは国の少子高齢化の影響を大きく受けます。恐らく人口はどんどん減っていくだろうと想定されます。

そうなりますと、今、阪神水道企業団では施設のダウンサイジング、あるいは広域化といひまして、宝塚市を区域に入れたように、今度は明石市が何とか区域に入らないかということで広域化も取り組んでいる。取り組みながらも、そういう部分がございますので、そこが我々の計画では十分に見込めないことがありますから、仮に値上げが発生した場合は我々も見直す必要があると考えます。今、62円の受水費がどうなるかわかりませんので、それは将来の中で発生し得る可能性はあると考えてございます。

(政岡委員)

阪神水道企業団の計画には値上げが入っているのでしょうか。

(事務局古田)

阪神水道企業団の水道供給ビジョン中では値上げは入ってなかったと記憶しております。

(政岡委員)

当日資料3の2-3要点説明の受水費5億1,900万円の削減額は平成30年から39年までの累計でよろしいでしょうか。前々から指摘させていただいている受水費の過払いの推移は現在どうなっていますか。

(事務局平野)

阪神水道企業団の過払いとしまして、平成28年度が9,870万円、27年度が1億1,300万円、26年度が9,990万円、25年度が8,032万8,000円、24年度が6,979万6,000円となっております。過払い額が年々増えているのは、芦屋市の使用水量自体が落ちている影響と考えております。

(政岡委員)

受水費の過払いの件については、諦めないでぜひ交渉を続けていただきたいなと思います。

(西尾会長)

確認ですが、芦屋市さんの水道ビジョンや収支計画は阪神水道企業団との取引は現状のままであることを前提につくられているということによろしいでしょうか。

(事務局平野)

おっしゃるとおりでございます。

(井上委員)

直接ビジョンに書くかどうかは別としまして、前回のビジョンと今回のビジョンで違うのは、特別利益がなくなるのが大きな環境変化で、それに対してどう対応するかをいろいろ苦勞されて、御相談をされておられるということで、4年ごとの見直しであれば、もう少し先で議論になるかもしれないですけど、コストダウンの中で、人を減らされるという計画も立派な御計画だと思うんですけど、ずっと見ていきますと、最後は半分ぐらいの人になってしまい、本当に水道料金を維持することが前提で、市民サービスのレベルが下がっていかないのかなと思います。

先ほど古田部長からは、委託へ出して、その分のサービスを下げないというお話があったと思いますが、そのコストもそういう意味では、多分上がっていくんだろうと思います。その意味ではそういう変化に対応するための手段として、もちろんコストダウンを精いっぱいやっていくのは当然だと思いますが、一方で市民サービスの維持のために、本当に水道料金をさわらなくていいのかどうかは議論があるのだろうとは思っています。

(事務局古田)

市民サービスの低下を来さないように、民間の方々のお力も借りて運営していきたいと考えてございます。

類似団体という言葉がございまして、全国で水道事業体が千四、五百ございまして、当芦屋市水道事業と同等の事業規模を行っている類似団体が50少し超えていたと思います。その類似団体の職員数の平均を見ますと今現在が20名でございます。我々サイドは平成39年度は24名と想定してございますけども、他の団体ができている以上は、我々もそれに負けないようにきっちり業務を行っていきたくと考えてございます。

(西尾会長)

今に関連してビジョンの25ページ、課題1番について確認します。

「芦屋市水道事業は事業規模が小さいことから、民間のノウハウ等を活用することで安定的な水道事業経営が期待されます。」という文言がここにあります。48ページの1.2.業務の効率化の(1)の2行目に、「芦屋市水道事業は規模が小さいこともあり、コスト面での効果が小さいものの」と書いています。これは今から私の申し上げることの理解でいいのかどうかを確認したいのですが、25ページの方は、民間のノウハウを活用することは大きい効果がありますよということで、これは規模が小さいから効果が大きいということ。これに対して48ページは、規模が小さいからコスト面では余りインパクトがないということでしょうか。25ページの方は、大きい都市ですと、1人分としていろんな仕事があるけども、それでもある部署には1人配置する必要があるので、そういう意味で民間に持っていった方が効率はいいですよというのが25ページの意味ですよ。

48ページは、といっても、そんな大規模じゃないので、要するに大きな都市よりも、それほど民間に委託していく量がないので、コスト効果はそれほどありませんよとい

う意味でよろしいでしょうか。

(事務局古田)

はい、おっしゃるとおりです。

(西尾会長)

分かりました。

他、いかがでしょうか。

この話は、今度、パブリックコメント実施後、また議論をさせていただきますし、最終的なものについての意見を我々審議会として提出することになりますので、またいろんな観点から検討していただいて、次回以降、議論していただくことにさせていただきますいなと思います。

今の議論を踏まえまして、水道ビジョンと水道事業経営戦略で修正をするところはありませんでしょうか。このままの形を出していただくことでよろしいですね。

それでは、今後のスケジュール説明をお願いします。

(事務局古田)

今後のスケジュール説明 (省略)

閉会